



[祈りと信仰のまち京都]

歴 148 (R02)

14世紀半ば、後光厳天皇の皇女見子内親王により創立され、「入江御所」とも称された浄土宗知恩院派の尼門跡寺院で、新町通の東側、上立売通の南側にあります。天明の大火により堂宇類焼後、桃園天皇皇女恭礼門院の旧殿を賜り再建されたと伝わります。

三時知恩寺という寺号は、厚く浄土教に皈依された後柏原天皇が、六時の勤行のうち昼の三時（みとき）を、この寺にて勤修するよう勅命されたことによります。六時の勤行とは、1日を6分し、4時間毎に念仏や読経などを行うことです。

本堂（客殿）と表門、居間、車裏などは、天明の大火後に大徳寺塔頭から移築されました。

御殿（旧書院）は、大玄関と使者の間の東側に中庭を持ち、入母屋屋根の平葺きで、棟飾りとして菊の御紋入り経の巻が飾られています。一の間から三の間の長には北山丸太を使い、円山応挙筆の襖絵や狩野永納筆の屏風、光格天皇から賜った三時知恩寺模様の扇面散しの襖など、贅を極めた設えが残されています。

書院前庭の枯山水庭園は、蓬莱の庭と呼ばれ、侘助椿が見事な花を咲かせます。



御殿（旧書院）内部



本堂（庭側）



〒602-0024 京都市上京区新町通今出川上ル上立売町4

電話番号 075-451-2211

アクセス 地下鉄烏丸線「今出川駅」徒歩5分